

前書き

事例分析編では質の高い成長の視点から5カ国の発展を検証する。理論編では、質の高い成長のアプローチを確立するためには、理論、政策、計測が必要であると述べた。事例分析編では、政策を学び、また理論を考察する上での洞察を得るため、それぞれの国の成長の軌跡をレビューした後、包摂性、強靱性、持続可能性がどのように変遷してきたのか、各国でどのような政策が講じられ、その結果はどうであったのかをそれぞれの国の専門家が要約した。このような事例研究を通じて、それぞれの国の発展は質の高い成長の枠組みから見てどのように評価され、何が有効で、どこに問題があったのかが見えてくる。第10章の補論で提示した指標と併せて見ていただくことで、さらに気づきもあるかもしれない。

事例分析を行った5カ国は、掲載順にインドネシア、ベトナム、ペルー、コスタリカ、マダガスカルである。地域や所得階層のバランスを考慮して選定されている。分析は、それぞれの国の専門家が行っている。得られた知見をひとことで要約すれば以下のとおりである。インドネシアでは成長は持続し、アジア金融危機を契機に経済の強靱性強化が優先されたが、近年は格差が拡大している。ベトナムでは包摂性、強靱性が維持されつつ、高成長が持続しており、質の高い成長がかなりの程度、実現した。ペルーの成長は堅調であり、強靱性も高まっているが、伝統的に大きな格差の改善が望まれる。コスタリカは、紆余曲折を経つつも、全体としては経済変容が順調に進んできた。ただし、格差の拡大に留意が必要である。マダガスカルは成長そのものに深刻な問題を抱えている。

これらの事例分析は2018～2022年にかけて行われ、執筆された。本書の作成にあたっては、理論編と事例分析編の分析を同時に開始した。理論の整理と構築を行いながらの事例分析を進めていったが、その過程で事例から得た教訓も踏まえつつ、理論編の検討を進めた¹⁾。こうした経緯と、それ以上に理論編の多くを

1) 事例研究における分析には2つの限界がある点について、あらかじめご承知いただきたい。第一に、成長は通念にしたがって、国内総生産（GDP）を用いてその発展を確認した後、包摂性、持続可能性、強靱性との関連を論じている。ここでは理論編で示された、

執筆した編著者の執筆の大幅な遅れにより、ここで紹介する事例研究の多くは完成から数年を経たものとなってしまった。このため、たとえば新型コロナウイルス感染症の影響などの最近の事象は反映されていない。これはひとえに編著者の責任である。しかしながら、事例分析で得た知見は、依然として有効である。なぜなら、本書の視点は短期的な成長を論じるのではなく、中長期のスパンで社会全体の厚生を引き上げるような成長のあり方を論じるものだからである。それぞれの事例分析が行われた年は次のとおりであるので、お読みいただく際にご留意いただきたい。インドネシア（2018年）、ベトナム（2022年）、ペルー（2018年）、コスタリカ（2019年）、マダガスカル（2018年）。

2025年8月

広田幸紀

消費者余剰などの所得以外に効用を高める厚生の要素は成長の数字には含まれていない。第二に、持続可能性の2つの論点のうち、事例研究で論じられている点は、主として成長のメカニズム、あるいは成長の継続である。インドネシアやペルーのように資源の豊かな国に関しては、資源の費消と成長の持続を論じているものの、気候変動と成長についてはいずれの国でも分析が行われていない。温室効果ガス（GHG）排出がグローバルな問題であるため、個別の国でのGHG排出と、その結果が成長にもたらす影響は一对一の関係にならないことが、国別分析で取り扱うことを困難なものにしている。

目 次

前書き	i
-----	---

第二分冊 事例分析編

第11章 インドネシア 1

1. 経済発展の概況	2
2. 成長と包摂性	6
3. 成長と強靱性	12
4. 成長と持続可能性	17
5. まとめ	28

第12章 ベトナム 33

1. 経済発展の概況	34
2. 成長と包摂性	39
3. 成長と強靱性	43
4. 成長と持続可能性	48
5. まとめ	56

第13章 ペルー 61

1. 経済発展の概況	62
2. 成長と包摂性	63
3. 成長と強靱性	69
4. 成長と持続可能性	78
5. まとめ	89

第14章 コスタリカ ————— 95

1. 経済発展の概況 ————— 96
2. 成長と包摂性 ————— 100
3. 成長と強靱性 ————— 109
4. 成長と持続可能性 ————— 113
5. まとめ ————— 120

第15章 マダガスカル ————— 129

1. 経済発展の概況 ————— 129
2. 成長と包摂性 ————— 131
3. 成長と強靱性 ————— 133
4. 成長と持続可能性 ————— 138
5. まとめ ————— 142

執筆者紹介 ————— 145

第一分冊 理論編 目次

第1章 はじめに

第2章 経済成長概観

第3章 質の高い成長の概念

第4章 包摂的な成長

第5章 強靱な成長

第6章 持続可能な成長：将来世代を犠牲にしない成長

第7章 イノベーション、経済の変容と成長の持続

第8章 質の高い成長と質の高いインフラ投資

第9章 質の高い成長と SDGs

第10章 質の高い成長を実現する

